2020 年度 JICA 地球ひろば　国際理解教育/開発教育指導者研修

国際理解教育/開発教育　学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	太田　京子	学校名	宮崎市立　清武中学校
教科（科目）・領域	総合的な学習の時間	対象学年（人数）	3 年（110 名）
実践年月日もしくは期間（時数）		2020 年 10 月　～　11 月（10 時間）	

【実施概要】

1. 単元名(活動名)：生き方を育む学習「テーマ学習」SDGsの視点から、自分にできることを考えよう！

2. 実践する教科・領域：
総合的な学習の時間

3. 学習領域

	1	2	3	4
A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
B グローバル社会	相互依存	情報化		
C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	

4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：

【知識及び技能】

○SDGsについて知り、社会や自身の関心事をSDGsの視点から見て、資料や情報を収集し活用する。

【思考力・判断力・表現力等】

○資料や情報等をもとに、自身の考えを整理し、他者に分かりやすいように紙面にまとめる。

○社会や自身の関心事について、SDGsの視点を入れて簡潔に述べる。（高校入試に向けて）

【学びに向かう力、人間性等】

○SDGsの課題は、自分たちの課題であることを実感し、身近なアクションにつなげる姿勢を育む。

5. 単元の評価規準

①知識及び技能	SDGs について知り、社会や自身の関心事を SDGs の視点から見て、資料や情報を収集し活用することができる。
②思考力、判断力、表現力等	資料や情報等をもとに、自身の考えを整理し、他者に分かりやすいように紙面にまとめることができる。
③学びに向かう力	SDGs の課題は、自分たちの課題であることを実感し、身近なアクションにつなげようとしている。

6. 単元設定の理由・単元の意義
（児童/生徒観、教材観、指導観）

【単元設定の理由あるいは単元の意義】

インターネットが生活の一部となり、海外との接点が増えてきている現代社会においても、物理的に海外と縁遠く感じる宮崎において、世界の問題を身近な問題として捉える視点を育むための機会を日常的に得ることは難しい。2020 年、コロナウィルス感染が世界の問題になっていることは、地方宮崎に住みながらも、世界と宮崎がつながっている事実を改めて生徒たちが強く確認することになった。これまでも、各教科、道徳や学級活動をはじめ学校生活の様々な場面において、「国際理解」に関する取組は行われてきている。しかし、それは教科内、個人授業の範囲であり、教科横断的な指導には至っていない。生徒の発言や記述、反応を見ても、外国に対する興味や関心はありつつも、世界の課題を「自分ゴト」としてとらえる視点が十分に育っていない生徒が多い。1 学期前半の英語の授業で 5Rs について扱った際、SDGs について問いかけたが、認知をしていたのは各学級の 2 割程度であった。自分の進路について真剣に向き合わなくてはいけない中学 3 年の今、社会の課題と向き合う視点を磨き、社会に貢献する姿勢を育むことは大変重要なことであると考える。そして、SDGs の視点を学年所属の教員が共有することで、教科横断的な授業を作るきっかけとなり、「国際理解」の視点を各教科や学校生活の様々な場面において、より広く、より深く扱うことにつながるのではないかと考える。

【児童／生徒観】

生徒は、総合的な学習の時間において、これまで次のような活動を行ってきた。第1学年では、「郷土の歴史や文化について調べ、学ぶことで、新たな道理や知識を見出す。」というねらいのもと、「郷土」「環境」「福祉」の3つのコースに分かれ、調査・探求・体験活動を行った。第2学年では、「自分のよさや可能性を生かし、自己実現に向かって行動できる力を育てる。」というねらいのもと、各行事「修学旅行」「職場体験学習」「立志式」と関連づけながら、今の自分を見つめ直し、将来の自分について考え深める活動を行った。第3学年では、「自分のよさや可能性を生かし、自己実現に向かって行動できる力を育てる。」というねらいのもと、「テーマ学習」と「進路について考える学習」を行う。コロナ禍において、教科の授業を優先してきたため総合的な学習の時間を設定することができず、本時から「テーマ学習」を始めることになる。

生徒たちは、「テーマ学習」で扱うSDGｓについて、「言葉を聞いたことがある」程度で、あまり深く理解していないのが現状である。各教科の授業で触れたことはあるが、一つひとつの目標について「自分ゴト」として考える活動にはいたっていない。

夏休み前に私の英語の授業で、「5Rs」を扱った単元があった。その際、単元タスクを「5Rsについて英語で意見文を書く！」と設定した。英語で意見文を書くため、苦労していたが、その中にあっても自身の体験を基に意見を述べている生徒が多く見られた。そのことから、世界や社会、身の回りにある課題について考える機会を設けることで、生徒の日頃の考えを整理させることができ、さらに、自身の体験と社会の事象を結び付けさせる活動を取り入れることが、生徒の視野を広げることにつなげられるということを実感した。

【教材観】

SDGsそのものについて学び、調査することを活動にするため、生徒自身が様々な教材を使って、調査・まとめ活動を行うことになる。その中でも、JICA広報誌mundiを紹介し、バックナンバーを活用して、課題解決ができるようにさせる。また、担当教師の手持ち資料として、JICA九州発行の「知ろうよ！SDCs×JICA」とmundi8月号「企業連携×SDGs　2030へ行動で挑む」を共通して扱うようにし、生徒への助言の際などに活用していく。

【指導観】

本単元は、10時間という短時間で行うため、生徒たちがSDGsについて理解を深め、自身の行動目標につなげることを主眼において進めていきたい。本時が、生徒たちにとっては、SDGsそのものについて学び深める初めての機会となるため、オリエンテーションを通して、生徒の興味・関心を高めるとともに、SDGsについて学ぶことの必要性を実感させるようにしたい。オリエンテーションでは、総合的な学習の時間のスタートであることを踏まえ、今後の全体の流れを確認したのち、SDGsについての話になる。まず、私が自身の経験を踏まえて、“Think Globally, Act Locally!”という視点について話し、世界の問題を「自分ゴト」として考える例を示したい。その後、ゲストティーチャーであるJICAデスク宮崎の田代さんの講話を通し、SDGsの背景や目的についての概要をつかませたい。その後、「テーマ学習」の運び方について確認し、自分の調査・探求したい課題を「17の目標」の中から選ばせる。次時からは、各自が選んだ目標ごとにグループ分けし、学年の教師6名で担当して調査活動とまとめ活動の支援を行う。調査活動においては、図書室やパソコン室、タブレットなどを使用する。インターネットを使う際は、JICAの広報誌mundiのバックナンバーを活用させるなど、有効な資料を示し、検索に手間をかけすぎないようにさせたい。ゴールイメージとしては、各自が調査結果を踏まえ、「自分にできること」という形で自分の実践につなげ、SDGsの目標を「自分ゴト」にできるようにしたい。また、その「できること」をすることは、どのような「未来」を作ることになると思うかという点まで、イメージすることを意識させたい。

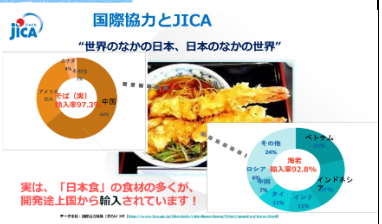
7. 単元計画（全 10 時間）

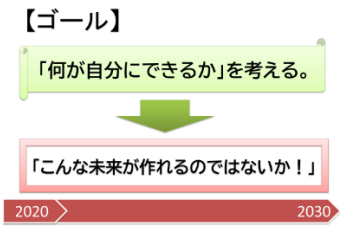
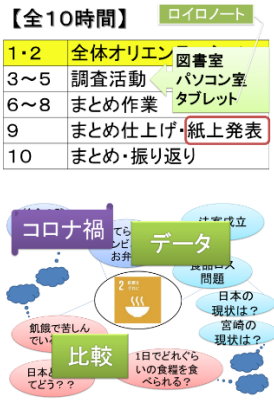
※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更してください。

時	ねらい	学習活動	資料など
1 2 本時	○SDGs について知る。 ○自分の関心のある項目を「17 の目標」の中から選び、具体的な調査目標や解決したい課題等を設定する。	○全体オリエンテーション： ―担当者・ゲストティーチャーによる動画や PPT を使った話 ○各クラスに分かれての活動： ―自分が調査したい項目を第１希望から第３希望まで理由とともに考えさせる。 ー第１希望から第３希望にあげた項目について、マインドマップをしながら、疑問点や課題を出していく。 ○振り返り： ―オリエンテーションの２時間を通して考えたことや今後の取組について思うことを振り返る時間を設定する。	・ゲストティーチャー：JICA デスク宮崎　田代さん ・「私たちがつくる持続可能な世界」unicef ・「どうなってるの？世界と日本」JICA ・動画「持続可能な開発目標：誰も置き去りにしない」国連広報センター ・「知ろうよ！SDGs×JICA」JICA 九州（教員手持ち資料） ・「広報誌 mundi12 月号」JICA（教員手持ち資料）
3 4 5	○自分の設定した目標・課題を解決するために、資料やインターネットから必要な情報を集める。	○グループに分かれての活動： ―テーマごとにグループに分かれ、担当教員の指導のもと、調査活動を行う。 ・図書室 ・パソコン室 ・タブレット　などを活用	・広報誌 mundi
6 7 8	○調べたことをもとに、「自分にできること」を考える。 ○他者に伝えるために紙面にまとめる。	○レポート作成： ―「誰に読んでもらうか」という相手意識をもって取り組ませる。	
9	○紙上発表会として、お互いのレポートを読み合う時間を設け、SDGs の視点から様々な「できること」が考えられることに気づく。	○紙上発表会： ―コース内で、お互いのレポートを回し読みする。読後のコメントを付せんに書いて渡す。 ○自己評価： ―活動を振り返るためにテーマ学習全体を振り返って自己評価を行う。	
１０	○代表の発表や、ゲストティーチャーの話を聞いて、SDGs についての学びを深める。	○代表４人による発表： ―SDGs についてどのような気づきがあったのか、代表の発表を聞いて、様々な視点があったことを知る一助とする。 ○講話： ―SDGs についての理解を深めるために。ゲストティーチャーの話を聞く。 ○振り返り： ―まとめの時間に考えたことや今後の取組について思ったことを振り返る場を設定する。	・ゲストティーチャー：JICA デスク宮崎　田代さん

8. 本時の展開（概略）

本時のねらい：SDGs の背景や 17 の目標について理解し、自分の取り組む課題を設定することができる。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 1 （10分）	1　「総合的な学習の時間」全体構想の確認	・学年主任が、目的や流れが分かるように説明する。	
導入 2 （10分）	2　“Think Globally, Act Locally！”という視点について 〇授業者が海外研修で訪問した国、フィリピンで出会った子供たちの様子を紹介し、開発途上国の置かれている状況を知る。 〇フィリピンで遠く離れた日本のことについて思いをはせ、行動した子がいることを紹介し、”Think Globally, Act Locally!”の考え方をイメージしやすくする。 	・開発途上国について身近に感じさせるために、授業者がフィリピンで出会った子たちの様子を写真で示しながら、話す。 	・フィリピンのパヤタス地区の様子の写真（子供たち、街並み、ゴミ山）
展開 1 （30分） （10分）	3　SDGs について 〇SDGs について、現在の世界の状況を踏まえながら、導入する。  4　今後の流れについて	・生徒が SDGs の目指すものや、世界の現状、日本と世界の関係などをイメージしやすいように、クイズや動画視聴を取り入れながら、説明する。 ・ゴールイメージをもって調査活動が進められるように、まと	・ゲストティーチャーによる講話：JICA デスク宮崎　田代さん ・動画「持続可能な開発目標：誰も置き去りにしない」国連広報センター

（5 分） 展開 2 （30 分）	○今後の調査・まとめ活動について説明する。  ～各教室へ移動～ 5　取り組む課題を設定 ○改めて担任より課題設定について話をし、動画を視聴した後、第 1 希望から第 3 希望まで調査したい項目を選ぶ。 ○３つの項目を選んだ後、それぞれについてマインドマップを使って、どのような視点で調査が進められるか、構想を広げる作業をする。 6　本時の振り返りを行う。	め方の方向性の例をいくつか示す。 ・担任からは、課題を理解しやすくすため、「５つの Ｐ」から SDGs を整理したものを再度示す。 ・課題設定をイメージしやすくするために、活動に入る前に動画を視聴する。 ・課題設定に悩んでいる生徒には、個別でその生徒の関心を引き出すように支援する。 ・振り返りシートに記入する。	 ・動画「世界に広めよう『持続可能な開発目標（SDGs）』Ⅲ～SDGs 達成のためにできることを始めてみよう」ユニセフ
まとめ （5 分）			

9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

【知識及び技能】

○SDGs について知り、自身の関心事と結び付け、課題を設定することができる。（観察・ワークシート）

【思考力・判断力・表現力等】

○自身が選んだ項目について、マインドマップを使って、構想を広げることができる。（ワークシート）

【学びに向かう力、人間性等】

○SDGs の課題は、自分たちの課題であることを実感し、課題設定に取り組んでいる。（観察）

10. 学習方法および外部との連携

○コロナ禍であることも踏まえ、ペアやグループ活動は行わず、個人で課題を設定し、調査・探求活動を行う。

○目標ごとに、学年全体を複数のコースに分け、6 人の教師で担当して指導を行う。授業者は、全体のサポート・支援を行う。

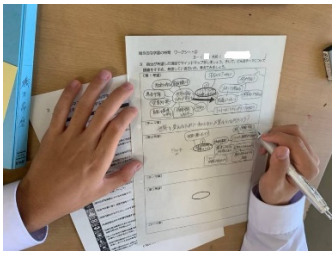
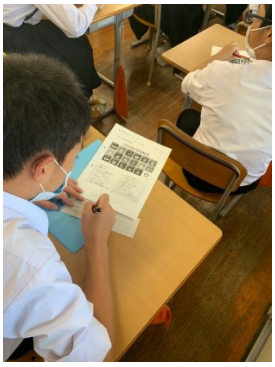
○調査・探究活動は、基本的に図書室・パソコン室・タブレットなど校内にある施設・教具を使う。

○JICA デスク宮崎の田代さんにゲストティーチャーとして入っていただき、オリエンテーションとまとめ時に話をしていただく。田代さんには、昨年度、第 1 学年の総合的な学習の時間で私が担当した「環境コース」で SDGs を扱った際に、発表時の講評をしていただきたいとご相談をしたことがきっ

かけで、今年度もご協力をいただけることになった。今回は、授業の準備段階から入っていただき、様々助言をしていただいている。
11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み ○年度初めに、学年の先生方に SDGs について話をし、生徒たちにとって必要な学びであることを理解していただいた。 ○学年全体で取り組むため、他の先生方と意見交換を進めながら取り組んでいる。その中で、「自分たちがまず勉強しないといけない」「年間通して取り組めれば、もっと広く取り組める内容である」「3 年間を通して段階を踏んで取り組めると良い」など、SDGs について前向きな意見が出され、関心が高まる様子が見られた。 ○今回は、紙上発表に留めるため、校内で掲示し、他学年の生徒たちや先生方にも目に留まるようにする。 ○校外で参加している英語教育の勉強会において、自身が英語の授業で SDGs を取り入れた実践を報告する。

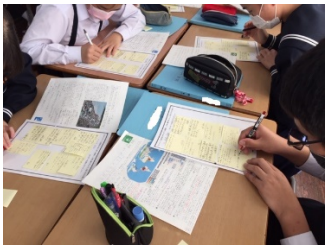
【自己評価】

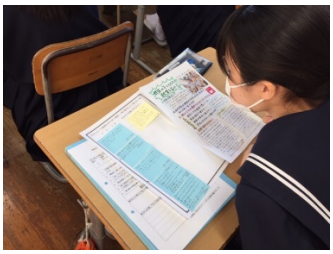
12. 苦労した点	○コロナ禍であったため、授業実施が予定よりも遅く始まり、かつ短期間（１０時間）で行うということで、生徒に SDGs について関心をもたせ、学習への動機づけを図るためにはどうすれば良いか悩んだ。SDGs との出会いとなるオリエンテーションが大事と考え、ゲストティーチャーの JICA デスク宮崎の方と何度も検討会をもった。 ○生徒のみならず、一緒に授業に取り組む学年職員にも、総合的な学習の時間で SDGs を取り上げることの意義を伝えるため、事前に打合せをする時間を複数回、設定した。
13. 改善点	○今回は、コロナ禍であることと短期間での取組であるという事情があったため、生徒が作成したレポートは紙上発表会という形を取り、お互いに読み合い、コメントを付箋に書くという形式を取った。本来であれば、全員に口頭で発表する場を設け、紙面では表せなかった課題に対する思いを伝える場があると良い。 ○時数がさらに確保できるのであれば、調査・まとめの時間をしっかり確保することはもちろんであるが、オリエンテーションに当たる SDGs について理解を深める時間をもう少し増やし、多くの課題について問題意識を高めることができるはずである。そうすることで、課題設定の際の視点がさらに広がった状態で調査活動に入れると考える。 ○今回は、第３学年のみという単学年の取組になったが、できれば、第１学年から指導計画を立てて、段階的に取り組むと、生徒の考えを実践にまで確実に広げることができる活動が設定できるのではないかと考える。
14. 成果が出た点	○JICA デスク宮崎の方と検討を重ねて行った全体オリエンテーションは、私が想像していた以上に、SDGs に関する生徒の意識を高めることができ、その時間の感想には、全ての生徒の心の変容が見て取れた。今回の SDGs を通しての学習で、世界が抱える課題について真剣に考えようとする姿勢が育まれた。 ○短期間での調査・まとめ活動だったにも関わらず、生徒たちは、授業時はもちろん、家庭で調べてくる姿勢も見られ、主体的に活動に取り組めていた。まとめでは、４人が代表で発表を行った。放課後を使って、短時間でレポートをベースにタブレットを使い、簡単なプレゼンを作成した。発表した４人は、非常に意識が高く、課題に対する強いメッセージをもっており、準備にも熱心に取り組んだ。本番も堂々と自分の意見を述べており、コロナ禍でなければ、もっと多くの人たちに聞いていただきたいと思うほ

	ど、思いのこもった主張であった。その４人の代表生徒の発表を受けて、さらに問題意識が高まったという感想を述べる生徒が多く見られた。 ○学年職員の SDGs に関する意識が変わったことも大きかった。打合せ時からも、この学習の意義については、理解してくださっていたが、実際に授業を行ったオリエンテーション後には、「本当に素晴らしい内容だった」「学年だけで行うのはもったいない。全校で取り組むべきだ」「他校でも行ったら良い」と、さらに理解を深めてくださった様子であった。全授業後にも、学年主任からは、「この学習活動は、今後も取り組んでいった方が良いものですね。」と１０時間を総括して、肯定的に評価していただいた。 ○授業で生徒が作成したレポートは、その後に JICA デスク宮崎が行ったイベントで展示していただき、一般の方にも読んでいただける機会を設けることができた。 ○今回の取組を地元紙である宮崎日日新聞が掲載してくださったことで、学校外からの反響もあった。その記事を見て、JICA デスク宮崎へ問い合わせがいくつもあり、その問い合わせから出前講座につながった学校が複数校あったと伺った。また、私への問い合わせもあり、中には本校学校長に対し、市外の学校長から問い合わせがあり、私が対応することもあった。その学校長からは、「今年度は難しいかもしれないが、次年度は、ぜひこの取組を本校でもしたい」との熱意あるお言葉をいただいた。
15. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	【オリエンテーション】   ・全世界で起きていることが、他人ごとではなくて、自分自身に関係することであることが、講師の先生の話を聞いて、より分かった。他国の貧困が日本にも影響を及ぼし、生活を変えてしまうことに危機感を感じた。いきなり大きなことはできなくても、まずは小さなことからコツコツとつづけていく努力をしようと深く思った。 ・今日のオリエンテーションを通して、今の世界や日本の問題点に気づくことができた。また、途中で見た映像で、私たち日本のように平和で安全に暮らすことができない人がまだ数多くいることに、改めて胸がしめつけられた。私たちと同じ、もしくは下の年齢の子どもも、家族や自分のために身をけずって働いたりしていることにも悲しくなった。これから総合の時間で、「SDGs」について調べていく中で、今の世界や日本の問題点に対しての知識を１つでも多く身につけ、自らの手で少しずつ解決に近づいていきたいと思った。そして、自ら発信して、同じ考えをもつ人を増やしていきたいと思った。 ・三年生になって最初の総合の時間で、これからやっていくことが自分たちの未来につながることだと聞いて、とても驚きました。SDGs の 17 の項目は、どれも大事なことで、何にしたいか決めることに少し迷ったりしたけれど、これからの日本、世界を守るための活動として十分に考えることが出来て良かったです。これから始

まる総合の授業の１つ１つをしっかりと大切にして、調べていきたいです。また、この授業が終わった後に、最後、自分の考えがしっかりとまとまっているようにしたいです。

【紙上発表会：自己評価】





・森林伐採などの自然環境の問題について、いろんなサイトから様々な情報をひっぱってきて、自分なりにわかりやすいように上手くまとめられたと思う。また、私の場合、ものすごく情報量が多いので、資料や色を使って、ポイントとなる部分に目印をつけたり、線を引いたりして、インパクトがあたえられるようにした。また、身近なものに例えて、実際の現状がどれほどのものなのかを示すことができた。もっとみんなに知ってもらいたかったことはまだあったけど、限られた紙上の中だったので、しぼったけど書ききれなくて字が小さくなってしまったのは反省点だけど、その分色などを工夫できたので良かったと思います。友達のにも初めて知ることはたくさんあって、でも、時間の関係でじっくり読めなかったのは少し残念でした。

・初めは、難しそうなテーマだと思っていたが、調べていくうちに、現在の状況に共通するもんが多く、とてもやりがいを感じた。自分の考えをイラストなどを使いしっかりとまとめることができ、今の自分を見直すきっかけになった。しっかりと「行動宣言」を実行していきたい。

・５秒に１人、５歳以下の誰かが命を落としているということを知って、想像がつかないけど、とてもおどろきました。募金ができるところは、たくさんあると思うので、積極的に参加したいと思いました。また、発表会では、飢餓やジェンダーについて自分が知らなかったことをたくさん学べて、今後の生活に生かせることがたくさん見つかったと思います。

【まとめ：代表４人の発表・ゲストティーチャー講話】

・代表の人達の発表は、とてもすごくて分かりやすかったです。自分もあんな風にキレイにまとめれたらなと思いました。先生がおっしゃっていたように、これからは「自分ゴト」と考えて生活し、自分にできることを探して取り組んでいきたいです。
・総合のかぎられた時間の中で、自分のできることをやりきれたと思います。しかし、この活動で終わりではなく、これからも努力をし、持続可能な社会を目指して、自分なりに活動していきたいと思います。とてもいい時間になりました。
・世界にはたくさんの問題があることを知った。2030 年までなので、SDGs について調べたあとは間に合うのだろうかという疑問がわいた。全部難しいことだけど、代表の発表の中に節電をするというのがあったので、すぐ実践していきたい。
・今日の発表を聞いて、自分で調べなかったテーマのことを考えることができた。また、SDGs の活動を行っている企業や自分がこれからできることなど深く知ることができた。SDGs について調べていくうちに世界の現状が分かった。身近なおｋとを頑張って、「幸せ」を目指していきたい。
・私は今日の話を聞いて、私たちにできることがたくさんあり、おどろきました。ペットボトルキャップ 430 個で 10 円になり、全校生徒が 2,3 個持ってくることで１人分の命を救うことができると聞いて、明日から実行しようと決めました。たくさんの企業が SDGs を達成するために頑張っているので協力したいと思います。
・今までは自分の意見について考えていたが、他の人（代表）の意見も聞いて、現在の世界の様子をほんの一部だが知ることができた。今、世界にとって必要なことを考えて、自分のできる範囲でもいいのでベストを尽くしていきたい。
・自分で調べたこと以外にもたくさん問題があると思った。自分にできることは小さいけれど、それをたくさんの人に広めたり、長期間続けることで、地球の未来が変わるように、行動していきたい。
・自分が調べている内容以外のものの話を聞くことができ、新しい発見になりました。また、私たちが悪影響をおよぼしていることに気づくことができたので、私も SDGs の中のそれぞれの目標に行動宣言を考えていきたいと思い、これからの進路に生かしていきたいです。
・私たちはまだ中学生ですが、もう中学生だからこそ、世界や環境のために行動していくべきなのだと感じました。今回は４人の発表だけでしたが、他の人のレポートも読んで、残りの 13 の目標についても、深く考えて、自分にできることを見つけたいと思います。

16. 授業者による自由記述	○コロナ禍の厳しい状況において、この授業を実施できたことは、私自身にとってはもちろん、生徒、一緒に授業を行った学年職員にとっても、とても貴重な経験となった。ある意味、コロナ禍であったからこそ、JICA デスク宮崎の方に本校の授業に全面的に関わっていただくことができ、「ピンチをチャンスに」変えることができた取組であったと思っている。一緒に授業を作り上げた JICA デスク宮崎の田代さんには、心から感謝している。 ○この授業が大きな成果を上げることができた要因の一つに、学年全体で取り組めたことが挙げられる。SDGs について、理解を深め、実践を行う上では、複数の教員が関わることで、問題を広く大きく多面的に扱い、活動することができる。教員間で意見交換をしながら動いたことで、生徒全体を充実した活動に導くことができた。一人の取組では、ここまでの成果を上げることはできなかったと思い、学年職員には、心から感謝している。 ○今回の取組は、地元紙で計３回に渡って、様々な形で紹介していただいた。この記事で本校の取組を知った他校の先生方の反響があったことが、思わぬ副産物であった。私が個人的に参加している英語の勉強会でも、実践を報告する機会をいただき、聞かれた先生方からは、「もっと多くの人に、この実践は知ってもらうべきだ」と肯定的な感想を頂いた。私の実践が、宮崎の SDGs への認知度を少しでも高めることに寄与し、各校での今後の実践につながるものになったのであれば、こんなに嬉しいことはない。 ○本研修に参加したことで、年度当初に、この学習に取り組もうと思っていた時以上に、私自身が SDGs への理解が深まり、様々な情報を得たからこそ、この授業は出来上がったと思っている。本研修を運営されている JICA 地球ひろばの方々をはじめ、講師の先生方、情報を共有できた参加者の先生方にも心から感謝している。

参考資料：

１）ＪＩＣＡデスク宮崎・・・全体オリエンテーションでの講話など

２）広報誌 mundi・・・生徒が調査活動をする際の資料

３）「知ろうよ！SDCs×JICA」・・・各教員の手持ち資料

５）「私たちがつくる持続可能な世界」unicef

６）「私たちが目指す世界：子どものための『持続可能な開発目標（SDGs)』
～2030 年までの 17 の目標～」

７）JICA「どうなってるの？世界と日本」

８）動画「持続可能な開発目標：誰も置き去りにしない」（国連広報センター）
https://www.youtube.com/watch?v=yEQJzdrYIcM

６）その他「お役立ちサイト」で示されている資料や JICA デスク宮崎の方から頂いた資料等を活用した。

総合的な学習の時間　ワークシート①

2020/10/01

3ー（　　）名前（　　）

1　SDGs【持続可能な開発目標】

1	貧困をなくそう	10	人や国の不平等をなくそう
2	飢餓をゼロに	11	住み続けられるまちづくりを
3	すべての人に健康と福祉を	12	つくる責任　つかう責任
4	質の高い教育をみんなに	13	気候変動に具体的な対策を
5	ジェンダー平等を実現しよう	14	海の豊かさを守ろう
6	安全な水とトイレを世界中に	15	陸の豊かさも守ろう
7	エネルギーをみんなに　そしてクリーンに	16	平和と公正をすべての人に
8	働きがいも　経済成長も	17	パートナーシップで目標を達成しよう
9	産業と技術革新の基盤をつくろう		

２　17 項目の中で、自分の関心があるもの、調査してみたいと思うものを第３希望まで選んで書きましょう。まずは提出用紙に書いて、その後、下の欄に書き写しましょう。

目　標	順位	理　由
「あらゆる場所のあらゆる形態の**貧困**を終わらせよう」		
「**飢餓**を終わらせ、全ての人が一年を通して**栄養**のある十分な食料を確保できるようにし、持続可能な農業を促進しよう」		
「あらゆる年齢の全ての人々の**健康的**な生活を確保し、**福祉**を促進しよう」		
「全ての人が受けられる公正で質の高い**教育**の完全普及を達成し、生涯にわたって学習できる機会を増やそう」		
「**男女平等**を達成し、全ての女性及び女児の能力の可能性を伸ばそう」		
「全ての人が安全な**水とトイレ**を利用できるよう衛生環境を改善し、ずっと管理していけるようにしよう」		
「全ての人が、安くて安定した持続可能な近代的**エネルギー**を利用できるようにしよう」		
「誰も取り残さないで持続可能な**経済成長**を促進し、全ての人が生産的で働きがいのある**人間らしい仕事**に就くことができるようにしよう」		
「**災害に強いインフラ**を作り、持続可能な形で産業を発展させ**イノベーション**を推進していこう」		
「国内及び国家間の**不平等**を見直そう」		
「安全で災害に強く、持続可能な**都市**及び**居住環境**を実現しよう」		
「持続可能な方法で**生産**し、**消費**する取り組みを進めていこう」		
「**気候変動**及びその影響を軽減するための緊急対策を講じよう」		
「持続可能な開発のために**海洋資源**を保全し、持続可能な形で利用しよう」		
「**陸上の生態系**や森林の保護・回復と持続可能な利用を推進し、砂漠化と土地の劣化に対処し、生物多様性の損失を阻止しよう」		
「持続可能な開発のための**平和的**で誰も置き去りにしない社会を促進し、全ての人が**法や制度**で守られる社会を構築しよう」		
「目標の達成のために必要な手段を強化し、持続可能な開発にむけて**世界のみんなで協力しよう**」		

※ここに掲載されている17の目標は、外務省の仮訳を参考に、教材のためにわかりやすく意訳したものです。

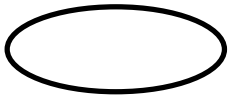
（「私たちが作る持続可能な世界」外務省×UNICEF　から）

総合的な学習の時間　ワークシート②

３－（　　）名前（　　）

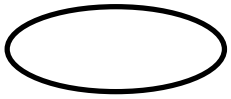
３　自分が希望した項目でマインドマップをしましょう。そして、どんなテーマについて調査をすすめ、発信していきたいか、考えてみましょう。

〔第１希望〕



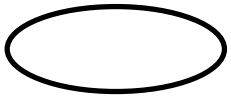
〔テーマ案〕

〔第２希望〕



〔テーマ案〕

〔第３希望〕



〔テーマ案〕

振り返りシート　　3ー(　　)名前(　　)

■各項目を振り返り、5～1で自分に当てはまる数字を○で囲みましょう。

〔5大変よくできた　4よくできた　3大体できた　4あまりできなかった　5できなかった〕

1）積極的に話を聞いたり、課題について考えたりすることができた。	5－4－3－2－1
2）SDGs について、大まかに理解することができた。	5－4－3－2－1
3）今後のコース学習に対する見通しを立てることができた。	5－4－3－2－1

■今日のオリエンテーションを通して考えたこと、気づいたこと、疑問に思ったことなど、感想や意見を書いてみましょう。

最初の総合的な学習の時間、よく頑張りましたね(*^-^*)

振り返りシート　　3ー(　　)名前(　　)

■各項目を振り返り、5～1で自分に当てはまる数字を○で囲みましょう。

〔5大変よくできた　4よくできた　3大体できた　4あまりできなかった　5できなかった〕

1）積極的に話を聞いたり、課題について考えたりすることができた。	5－4－3－2－1
2）SDGs について、大まかに理解することができた。	5－4－3－2－1
3）今後のコース学習に対する見通しを立てることができた。	5－4－3－2－1

■今日のオリエンテーションを通して考えたこと、気づいたこと、疑問に思ったことなど、感想や意見を書いてみましょう。

最初の総合的な学習の時間、よく頑張りましたね(*^-^*)